

## 資料目次

資料 1	内容的妥当性の検討；専門家への依頼　＜研究の説明書＞ .....	i
資料 2	内容妥当性の検討；専門家への依頼　＜質問紙＞ .....	iii
資料 3	内容妥当性の検討；被験者の代表へ依頼　＜研究の説明書＞ .....	xvi
資料 4	内容妥当性の検討；被験者の代表へ依頼　＜質問紙＞ .....	xviii
資料 5	本調査　対象病院リクルート時の依頼書；看護部責任者宛て .....	xxiv
資料 6	本調査　対象病院リクルート時の協力諾否の葉書；看護部責任者宛て .....	xxvi
資料 7	本調査　対象病院看護師への研究協力依頼書 .....	xxvii
資料 8	本調査　対象病院看護師への質問紙 .....	xxviii



## 資料1 内容的妥当性の検討；専門家への依頼 ＜研究の説明書＞

### 研究の説明書

歳末ご多端の折、ますますご清祥でご活躍のことと存じます。

私は、聖路加国際大学博士後期課程に在籍し、看護教育学を専攻している松尾尚美と申します。この度、「看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度の開発に関する研究」を実施するにあたり、研究へのご協力をお願いいたします。

研究の目的と意義：

近年、患者中心の医療や患者が主体的に参加する医療が求められ、患者の権利を擁護し、患者の意思決定を支援する看護師の役割が重要となっています。本研究では、そのような看護師の役割を患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援と定めています。この度、「看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度」を開発することで、看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力に関連する個人的、環境的な要因を探ることができ、看護師の患者アドボカシーの実践に向けた新たな知見が得られると考えられます。

研究の方法と協力依頼内容：

- 尺度開発である本研究は1.専門家による内容側面からの妥当性の検討、2. 被験者の代表による内容的側面からの妥当性の検討、3. 本調査、の3段階に分かれています。今回協力を依頼するのは、【1. 専門家による内容側面からの妥当性の検討】です。
- 研究の対象者は、5年目以上の臨床経験年数と看護学の修士号以上をもち臨床で働いている看護師、または看護学を教えている大学教員です。以上の条件を満たす方に研究のご協力をお願いしています。
- 協力依頼内容：
  - ① 「看護師による患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度」を構成する概念として4つの概念を抽出しています。これらが記載されている質問紙をお渡しします。
  - ② 看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力を構成する概念と質問項目で述べられている内容が一致しているかどうか、尺度項目の適切さを評価していただきたく存じます。
  - ③ ご回答いただいた質問紙はお渡しする返信用封筒をご使用の上、ご投函くださいますようお願いいたします。

ご協力いただく回数は1回です。回答には約30分程度のご負担が生じます。  
質問紙の提出をもって、研究参加への同意といたします。

#### 倫理的配慮

- 研究協力は自由意思によるものであり、断った場合でも不利益は被ることはありません。研究される方のプライバシーは保護いたします。
- 本研究で得られた個人情報、ならびにデータは研究終了後5年間、厳重に鍵付きのキャビネットに保管し、その後シュレッダーにて裁断、処理いたします。
- この研究にご協力いただくことは、あなたにとって直接的には利益はありませんが、研究の成果は看護実践、および看護教育への知見として生かせるように努めてまいります。
- 本研究は聖路加国際大学博士論文として学会等で発表する予定としています。研究に関する情報はいつでもお受けいたします。他の研究対象者等の個人情報等の保護及び当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料はお見せいたします。研究者のメールアドレスにお問合せください。
- 本研究は研究者が所属する資金を用いて実施します。本研究に関連する利益相反はありません。

ご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施しております。

(承認番号 16-A047)

聖路加国際大学大学院 看護学研究科博士後期課程 看護教育学専攻

松尾 尚美

所属機関住所：〒175-0094 東京都中央区築地3-8-5

聖路加国際大学2号館

電話：〇〇〇 - 〇〇〇 - 〇〇〇〇

メールアドレス：13DN012-ts@slcn.ac.jp

指導教員：聖路加国際大学看護教育学教授 松谷美和子

## 資料2 内容妥当性の検討；専門家への依頼 ＜質問紙＞

看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度に関する研究へのご協力をお願い

### 尺度項目の適切さの検討

「看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度」は、看護師が患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援を、どの程度実施しているかを測定する尺度です。

このたび、看護師へのインタビュー調査や関連文献から、看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度を構成する概念として4つの概念を抽出しました。

今回は、看護を専門とする皆さまにご協力いただき、質問項目で述べられている内容が、概念の定義と一致しているかどうかを評価していただきたく存じます。

回答用紙は、「看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力」を構成する概念ごと、4つに分かれています。1つのパートには、概念の定義の説明と、その概念に振り分けられた質問項目が記載されています。

### お願いしたいこと

お願いしたいことは以下の4つです。

- ① 質問項目の1つずつが、振り分けられた概念の定義に当てはまっているか、「当てはまる」「当てはまらない」のいずれかに丸印（○）をご記入ください。
- ② 1つの概念に振り分けた質問項目全体が、その概念をどの程度表しているかを「非常に一致している」～「まったく一致していない」の4段階で評価してください。
- ③ 概念ごとに質問項目の表現が適切か、不足している項目はないか、あてはまらない項目はないか等、自由にご意見をお願いいたします。
- ④ ご回答いただいた質問紙はお渡しした返信用封筒を使用して投函をお願いいたします。

お忙しいところ、お手数をおかけしますが、  
ご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。

## I の概念【患者が決めるべきことに対して行動する力】

### 下位概念 1. 「決めるべきことに注目するように支援する力」

「決めるべきことに注目するように支援する力」とは、決めることに対する患者のレディネスを把握し、何をいつまでに決めるべきか、決めること自体に注目するようかわる力のことを表します。

1) 以下の各項目が「決めるべきことに注目するように支援する力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
1	患者が今何を決めなければならないか常に把握している		
2	患者が決めようと思った理由を常に把握している		
3	患者がいつまでに決めなければならないか常に把握している		
4	患者が決めることについてどの段階にいるか常に把握している (※段階とは；どのような選択肢があるかまだ十分に知らない、もう少しで決められる、選択肢の中でどれを選ぶか迷っている、もう決めているなどのことを指します)		
5	患者がどのような決め方をしたいか常に把握している		
6	患者にとって問題となっていることに注目するように常に関わっている		

2) 上記 6 つの項目は、全体として「決めるべきことに注目するように支援する力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見

## 下位概念 2. 「どのように決めたいか望む方法を支援する力」

「どのように決めたいか望む方法を支援する力」とは、患者に対しどの程度関わり、どのような方法で決めることができるか、かかわる力のことを表します。

1) 以下の各項目が「どのように決めたいか望む方法を支援する力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
7	患者にとって問題となっていることは患者自身が決めることができるということを常に患者に伝えている		
8	患者にとって問題となっていることに関わりたくないと決める権利があることを常に伝えている		
9	患者が治療方針を決めることにどれだけ関わりたいか必ず確認している		
10	治療に関するどの選択肢が利用可能であるか常に把握している		
11	患者が情報を受け取る際にどのような方法を好むか常に考えている (例；話し合う、資料を読む、データを見る、メディア素材を使うなど)		
12	患者が情報を受け取るために好む方法を看護師として利用している (例；話し合う、資料を読む、データを見る、メディア素材を使うなど)		

2) 上記 6 つの項目は、全体として「どのように決めたいか望む方法を支援する力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見

## Ⅱ の概念【患者の決める過程を支援する力】

### 下位概念 1「選択肢すべての利点・欠点について説明する力」

「選択肢すべての利点・欠点について説明する力」とは、すべての治療の選択肢とその利点と欠点について、選択しないということも含めて、すべての選択肢に時間をかけ丁寧に説明する力のことを表します。

1) 以下の各項目が「選択肢すべての利点・欠点について説明する力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
13	治療の選択肢があることを患者に提示している		
14	治療の選択肢を提示する際、選択肢の中に「選択しない」ということも含ませている		
15	治療の選択肢すべての利点と欠点について、時間をかけ丁寧に説明している		
16	治療を選択しない場合の利点と欠点について、時間をかけ丁寧に説明している		
17	治療の選択を今決めなければならいか、あるいは時間があるかについて必ず説明している		

2) 上記 5 つの項目は、全体として「選択肢すべての利点・欠点について説明する力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見



## 下位概念 2【価値観を明確にすることを支援する力】

「価値観を明確にすることを支援する力」とは、患者が治療の選択肢すべてを理解したうえで、自分にとって重要であることを見出すことを支援する力のことを表します。

1) 以下の各項目が「価値観を明確にすることを支援する力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
18	患者が治療の選択肢の中で最も良いものを選択することに自信があるか常に把握している		
19	患者が治療の選択肢の中でどの利点を最も重視するか患者自身が明確にすることを常に支援している		
20	患者が治療の選択肢の中でどのような危険性と副作用を最も重視するか明確にすることを常に把握している		
21	患者が治療の選択肢の中で有益性、危険性、副作用のどれを重視するか明確にすることを常に支援している		
22	患者がどの選択肢が最も良いと思っているかを常に把握している		
23	患者が何を選択すべきかに自信があるか否かを常に把握している		
24	患者が決めたことは患者にとって何が重要かを示すものであることを常に意識している		

2) 上記の 7 つ項目は、全体として「価値観を明確にすることを支援する力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見

### 下位概念 3「選択肢すべての利点・欠点が整理できるよう支援する力」

「選択肢すべての利点・欠点が整理できるよう支援する力」とは、患者が治療の選択肢すべての利点と欠点が整理できるように支援する力のことを表します。

1) 以下の各項目が「選択肢すべての利点・欠点が整理できるよう支援する力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
25	患者が治療の選択肢のすべての利点と欠点が整理できるように常に関わっている		
26	患者が治療の選択肢のすべての利点と欠点の重要度が整理できるように、常に関わっている		
27	患者が治療の選択肢のすべての利点と欠点を理解しているか、常に把握している		
28	患者が治療の選択肢のすべての利点と欠点の発生について調べているか、常に把握している		
29	治療の選択肢のすべての利点と欠点の中で、患者にとってどれが一番重要か明確にすることを、常に支援している		

2) 上記 5 つの項目は、全体として「選択肢すべての利点・欠点が整理できるよう支援する力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見

#### 下位概念 4「患者の理解状況を観察する力」

「患者の理解状況を観察する力」とは、治療の選択肢に関する情報について十分理解した上で選択ができるか患者の理解状況を観察する力のことを表します。

1) 以下の各項目が「患者の理解状況を観察する力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
30	患者が得た情報について理解しているか、常に確認している		
31	患者が十分な情報を得た上で治療を選択したか、常に把握している		

2) 上記 2 つの項目は、全体として「患者の理解状況を観察する力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見

### 下位概念5「他者からのサポートが受けられるように計らう力」

「他者からのサポートが受けられるように計らう力」とは、治療の選択をする際に家族や友人から十分な支援が得られ、同じような経験をした人の選択について情報が得られるように計らう力のことを表します。

- 1) 以下の各項目が「他者からのサポートが受けられるように計らう力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
32	患者が家族や友人から十分な支援が得られているか、常に把握している		
33	患者が自身にとって何が一番重要かについて他者と話し合っているか、常に把握している		
34	患者がかつて同じような選択をした人に話を聞くことができることについて、情報提供している		
35	他の患者が何を重要視して決めたのか書かれたものを読むことができることを、患者に伝えている		

- 2) 上記4つの項目は、全体として「他者からのサポートが受けられるように計らう力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

- 3) ご意見

### 下位概念 6「気がかりを表出させ解決する力」

「気がかりを表出させ解決する力」とは、心配ごとや関心がどこにあり、表出できているか確かめ、解決できるように計らう力のことを表します。

- 1) 以下の各項目が「気がかりを表出させ解決する力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
36	患者が気になっていることを表出できているか常に把握している		
37	患者が気になっていることを表出できるように常に支援している		
38	患者が治療の選択肢の利点と欠点が生じた場合にどうなるかについて主治医に聞くことができているか、常に把握している		
39	患者が気になっていることに対してどのように解決しようと思っているか、常に探っている		
40	患者の関心や心配がどこにあるか、常に探求している		
41	患者が質問できる機会を常に提供している		
42	患者が治療を受けるか否か決めることに難しさを感じていないか、常に把握している		

- 2) 上記 7 つの項目は、全体として「気がかりを表出させ解決する力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見

下位概念 7「決めた後の状況を確認する力」

「決めた後の状況を確認する力」とは、患者が自分自身で決め、決めたことに迷わず、自信があるかを確認する力のことを表します。

1) 以下の各項目が「決めた後の状況を確認する力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
43	患者が他者からの圧力を受けることなく選択しているか、常に把握している		
44	患者が決めたことに対して変える意思がないか、常に把握している		
45	患者が決めたことに対してゆらぎはないか、常に観察している		
46	患者が自身の決定に満足しているか、常に観察している		
47	患者が治療方針を決めた後、その決定で良いか必ず尋ねている		

2) 上記 5 つの項目は、全体として「決めた後の状況を確認する力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見

### Ⅲの概念【医師に対して働きかける力】

#### 下位概念1「医師の意思決定支援に対して行動できる力」

「医師の意思決定支援に対して行動できる力」とは、患者が主治医から決めるべきこと、すべての治療の選択肢とその利点と欠点について十分な説明を受けた上での選択をし、合意に至っているか確認し、不十分と判断すれば行動できる力のことを表します。

- 1) 以下の各項目が「医師の意思決定支援に対して行動できる力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
48	患者の主治医が患者に決めるべきことを説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている		
49	患者の主治医が患者に治療の選択肢があることを説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている		
50	患者の主治医が患者に治療の選択肢すべての利点と欠点について詳細に説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている		
51	患者の主治医が患者に全ての情報を理解できるように説明していない時、説明する必要があることを医師に常に伝えている		
52	患者の主治医が患者にどの治療を選択したいか尋ねていない時、尋ねる必要性があることを医師に常に伝えている		
53	患者の主治医と患者が治療の選択肢について徹底的に話し合っているか常に観察している		
54	患者の主治医と患者が治療の選択肢を一緒に選んだか、常に確認している		
55	患者の主治医と患者が治療の継続について合意に達しているか、常に確認している		

2) 上記 8 つの項目は、全体として「医師の意思決定支援に対して行動できる力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見

#### IVの概念【専門的な知識をもつ力】

##### 下位概念 1「専門職として理解し、説明できる力」

「専門職として理解し、説明できる力」とは、患者が受ける治療の選択肢すべてとその利点・欠点、危険性・副作用について理解し、説明できる力のことを表します。

1) 以下の各項目が「専門職として理解し、説明できる力」の定義に当てはまるか、否かを丸印（○）でお答えください。

No.	質問内容	当てはまる	当てはまらない
56	治療の選択肢すべてについて常に把握している		
57	治療の選択肢すべての利点と欠点について常に把握している		
58	治療の選択肢すべての危険性と副作用を常に把握している		

2) 上記 3 つの項目は、全体として「専門職として理解し、説明できる力」にどの程度一致していると思われますか。「非常に一致している」～「まったく一致していない」のいずれかでお答えください。当てはまる□に丸印（○）をつけてください。

	1. 非常に一致している
	2. かなり一致している
	3. あまり一致していない
	4. まったく一致していない

3) ご意見



以上です。  
ご協力を心より感謝申し上げます。

### 資料3 内容妥当性の検討；被験者の代表へ依頼 ＜研究の説明書＞

#### 研究の説明書

歳末ご多端の折、皆様におかれましてはいつそうご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は、聖路加国際大学博士後期課程に在籍し、看護教育学を専攻している松尾尚美と申します。この度、「看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度の開発に関する研究」を実施するにあたり、研究へのご協力をお願いいたします。

#### 研究の目的と意義：

近年、患者中心の医療や患者が主体的に参加する医療が求められ、患者の権利を擁護し、患者の意思決定を支援する看護師の役割が重要となっています。本研究では、そのような看護師の役割を患者アドボカシー概念に基づく意思決定支援と定めています。この度、「看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度」を開発することで、看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力に関連する個人的、環境的な要因を探ることができ、看護師の患者アドボカシー実践に向けた新たな知見が得られると考えられます。

#### 研究の方法と協力依頼内容：

- 尺度開発である本研究は1.専門家による内容側面からの妥当性の検討、2. 被験者の代表による内容的側面からの妥当性の検討、3. 本調査の3段階に分かれています。今回ご協力を依頼するのは【2. 被験者の代表による内容的側面からの妥当性の検討】です。
- 研究の対象者は、5年目以上の臨床経験年数を有する看護師の方としています。
- 協力依頼内容：
  - ① 「看護師による患者アドボカシー：意思決定支援力測定尺度」の質問紙をお渡しします。
  - ② 質問紙の内容の分かりにくさ、答えにくさ、質問紙の実際の回答時間などについてご意見をいただきたく存じます。
  - ③ ご協力いただく回数は1回です。回答には約20分間のご負担が生じます。
  - ④ ご回答いただいた質問紙はお渡しする返信用封筒をご使用の上、ご投函くださいますようお願いいたします。

質問紙の提出をもって、研究参加への同意といたします。

#### 倫理的配慮：

- 研究協力は自由意思によるものであり、研究協力はいつでも拒否することができます。断った場合でも不利益は被ることはありません。研究される方のプライバシーは保護いたします。
- 本研究で得られた個人情報、ならびにデータは研究終了後 5 年間厳重に鍵付きのキャビネットに保管し、その後シュレッダーにて裁断、処理いたします。
- この研究にご協力いただくことは、あなたにとって直接的には利益はありませんが、研究の成果は看護実践、および看護教育への知見として生かせるように努めてまいります。
- 本研究は聖路加国際大学博士論文として学会等で発表する予定としています。研究に関する情報はいつでもお受けいたします。他の研究対象者等の個人情報等の保護及び当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料はお見せいたします。研究者のメールアドレスにお問合せください。
- 本研究は研究者が所属する資金を用いて実施します。本研究に関連する利益相反はありません。

ご不明な点がございましたら、遠慮なく下記へお問い合わせください。

本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施しております。

(承認番号 16-A047)

**聖路加国際大学大学院 看護学研究科博士後期課程 看護教育学専攻 松尾尚美**

所属機関住所：〒175-0094 東京都中央区築地 3-8-5

聖路加国際大学 2 号

電話：〇〇〇 - 〇〇〇 - 〇〇〇〇

メールアドレス：13DN012-ts@slcn.ac.jp

指導教員：聖路加国際大学看護教育学教授 松谷美和子

#### 資料 4 内容妥当性の検討；被験者の代表へ依頼 <質問紙>

##### 看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における 意思決定支援力測定尺度に関する研究

##### 質問紙の回答に関するアンケート

この質問紙は、多くの協力者に質問紙を配布するのに先立ち、アンケートの回答時間、質問紙の内容の分かりにくさ、答えにくさを確認する目的で行います。

このアンケートは、現在病院に就業している 5～6 名の看護師の方にご協力いただく予定です。

無記名でのアンケートですので、個人が特定されることはありません。ご参加いただくか否かは皆さまの任意によるものです。

お忙しい中、大変恐縮ですが、ご協力いただきますと幸いです。

##### おねがい

お願いしたいことは下記の 2 つです。

- ① 回答にかかった時間を、質問紙回答後に伺います。始める前に、時間の確認をお願いいたします。
- ② わかりにくい表現、回答しにくい項目については、同封しております赤ペンにて印やメッセージを書き込んでくださいますようよろしくお願いいたします。

次ページより質問紙です。質問紙は全部で○ページあります。



3.あなたが所属する部署について以下についてどの程度当てはまりますか。該当する番号を1つだけ選び○で囲んでください。		5. 非常にあてはまる	4. かなりあてはまる	3. あてはまる	2. あまりあてはまらない	1.まったくあてはまらない
1	患者が治療方針を決めることについて、話し合える同僚がいる					
2	目標となる上司や先輩がいる					
3	患者が治療方針を決めることについて、相談できる上司や先輩がいる					
4	患者が治療方針を決めることについて、話しやすい病棟の環境である					
5	患者が治療方針を決めることについて医師と話し合いやすい雰囲気がある					
6	患者が治療方針を決めるについてケアやわからないことについて薬剤師や栄養士、理学療法士などの他職種と話し合いやすい雰囲気がある					
7	職場の環境には満足している					
8	病棟単位での勉強会はよく開催されている					
9	病棟単位での勉強会はよく参加する					
10	病棟での意思決定支援に関する勉強会はよく開催されている					
11	病院内の勉強会はよく開催されている					
12	病院内での意思決定支援に関する勉強会はよく開催されている					
13	病院内の勉強会はよく参加する					

4. あなたが看護を実践するときのことを伺います。もっとも当てはまる回答の番号を（○）で囲んでください。	かなりあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1 患者が今何を決めなければならないか常に把握している				
2 患者が決めようと思った理由を常に把握している				
3 患者がいつまでに決めなければならないか常に把握している				
4 患者が決めることについてどの段階にいるか常に把握している （※段階とは：どのような選択肢があるかまだ十分に知らない、もう少しで決められる、選択肢の中でどれを選ぶか迷っている、もう決めているなどのことを指します）				
5 患者がどのような決め方をしたいか常に把握している				
6 患者にとって問題となっていることに注目するように常に関わっている				
7 患者にとって問題となっていることは患者自身が決めることができるということを常に患者に伝えている				
8 患者にとって問題となっていることに患者自身が関わりたくないし決める権利があることを常に患者に伝えている				
9 患者が治療方針を決めることにどれだけ関わりたいか必ず確認している				
10 治療に関するどの選択肢が利用可能であるか常に把握している				
11 患者が情報を受け取る際にどのような方法を好むか常に考えている （例：話し合う、資料を読む、データを見る、メディア素材を使うなど）				
12 患者が情報を受け取るために好む方法を看護師として利用している （例：話し合う、資料を読む、データを見る、メディア素材を使うなど）				
13 治療の選択肢があることを患者に提示している				
14 治療の選択肢を提示する際、選択肢の中に「選択しない」ということも含ませている				
15 治療の選択肢すべての利点と欠点について、時間をかけ丁寧に説明している				
16 治療を選択しない場合の利点と欠点について、時間をかけ丁寧に説明している				
17 治療の選択を今決めなければならないか、あるいは時間があるかについて必ず説明している				
18 患者が治療の選択肢の中で最も良いものを選択することに自信があるか常に把握している				
19 患者が治療の選択肢の中でどの利点を最も重視するか患者自身が明確にすることを常に支援している				
20 患者が治療の選択肢の中でどのような危険性と副作用を最も重視するか明確にすることを常に把握している				
21 患者が治療の選択肢の中で有益性、危険性、副作用のどれを重視するか明確にすることを常に支援している				
22 患者がどの選択肢が最も良いと思っているかを常に把握している				
23 患者が何を選択すべきかに自信があるか否か、を常に把握している				
24 患者が決めたことは患者にとって何が重要かを示すものであることを常に意識している				
25 患者が治療の選択肢のすべての利点と欠点が整理できるように常に関わっている				
26 患者が治療の選択肢のすべての利点と欠点の重要度が整理できるように、常に関わっている				
27 患者が治療の選択肢のすべての利点と欠点を理解しているか、常に把握している				
28 患者が治療の選択肢のすべての利点と欠点の発生について調べているか、常に把握している				
29 治療の選択肢のすべての利点と欠点の中で、患者にとってどれが一番重要か明確にすることを、常に支援している				

4. あなたが看護を実践するときのことを伺います。もっとも当てはまる回答の番号を（○）で囲んでください。	かなりあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
30 患者が得た情報について理解しているか、常に確認している				
31 患者が十分な情報を得た上で治療を選択したか、常に把握している				
32 患者が家族や友人から十分な支援が得られているか、常に把握している				
33 患者が自身にとって何が一番重要かについて他者と話し合っているか、常に把握している				
34 患者がかつて同じような選択をした人に話を聞くことができることについて、情報提供している				
35 他の患者が何を重要視して決めたのか書かれたものを読むことができることを、患者に伝えている				
36 患者が気になっていることを表出できているか常に把握している				
37 患者が気になっていることを表出できるように常に支援している				
38 患者が治療の選択肢の利点と欠点が生じた場合にどうなるかについて主治医に聞くことができているか、常に把握している				
39 患者が気になっていることに対してどのように解決しようと思っているか、常に探求している				
40 患者の関心や心配がどこにあるか、常に探求している				
41 患者が質問できる機会を常に提供している				
42 患者が治療を受けるか否か決めることに難しさを感じていないか、常に把握している				
43 患者が他者からの圧力を受けることなく選択しているか、常に把握している				
44 患者が決めたことに対して変える意思がないか、常に把握している				
45 患者が決めたことに対してゆらぎはないか、常に観察している				
46 患者が自身の決定に満足しているか、常に観察している				
47 患者が治療方針を決めた後、その決定で良いか必ず尋ねている				
48 患者の主治医が患者に決めるべきことを説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている				
49 患者の主治医が患者に治療の選択肢があることを説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている				
50 患者の主治医が患者に治療の選択肢すべての利点と欠点について詳細に説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている				
51 患者の主治医が患者に全ての情報を理解できるように説明していない時、説明する必要があることを医師に常に伝えている				
52 患者の主治医が患者にどの治療を選択したいか尋ねていない時、尋ねる必要性があることを医師に常に伝えている				
53 患者の主治医と患者が治療の選択肢について徹底的に話し合っているか常に観察している				
54 患者の主治医と患者が治療の選択肢を一緒に選んだか、常に確認している				
55 患者の主治医と患者が治療の継続について合意に達しているか、常に確認している				
56 治療の選択肢すべてについて常に把握している				
57 治療の選択肢すべての利点と欠点について常に把握している				
58 治療の選択肢すべての危険性と副作用を常に把握している				

次のページに所要時間と負担感、感想などをお答えください。



1. 質問紙の回答にはどのくらい時間がかかりましたか。 \_\_\_\_\_ 分

2. この質問紙に答えるのは、ご負担になりましたか。  
当てはまる以下の番号に丸（○）をつけてください。

- ① 全く負担に感じなかった
- ② あまり負担を感じなかった
- ③ やや負担に感じた
- ④ とても負担に感じた

3. その他、ご意見やアドバイスがありましたらよろしくお願いいたします。

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

資料 5 本調査 対象病院リクルート時の依頼書；看護部責任者宛て

〇〇病院

看護部長殿

アンケート調査ご協力をお願い

看護師の患者アドボカシー概念に基づく

治療選択における意思決定支援力測定尺度の開発に関する研究

晩冬の候、皆様におかれましてはいっそうご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は、聖路加国際大学博士後期課程に在籍し、看護教育学を専攻している松尾尚美と申します。現在、「看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度の開発」に関する研究に取り組んでおります。

近年、患者中心の医療や患者が主体的に参加する医療が求められ、患者を尊重し、患者の意思決定を支援する看護師役割の重要性が認識されています。

本研究では、そのような看護師による意思決定支援を、患者アドボカシー（患者の権利を擁護すること）の行為であると定義しています。

この度、看護師が実施している患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力を調査し、その看護実践のあり様を尺度として可視化したいと考え、アンケート調査を計画いたしました。また、この調査により、看護師が患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援を実施するための個人的・環境的な因子を探索するだけでなく、患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力を高める教育への重要な示唆が得られるものと考えています。

ご多忙の中、誠に恐れ入りますが、本研究の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただければ大変有難いと存じます。

質問紙の概要

対象；現在看護師として就業されている方

（常勤・パート・役職などは問いません）

質問紙は 20 分程度でお答えいただける内容になっています。

大変お手数をおかけしますが、協力の諾否について、同封の返信用はがきにてお知らせ  
くださいますようお願い申し上げます。はがきに必要事項をご記入の上、○月○日までに  
ご投函くださいますようよろしくお願いいたします

(返信の際には、個人情報保護シールをご使用ください。)

本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施しております。

(承認番号 16-A047)

ご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

聖路加国際大学大学院 看護学研究科博士後期課程 看護教育学専攻 松尾尚美  
所属機関住所：〒104 - 0045 東京都中央区築地 3-8-

5

聖路加国際大学 2 号館

電話：〇〇〇 - 〇〇〇 - 〇〇〇〇

メールアドレス：13DN012-ts@slcn.ac.jp

指導教員：聖路加国際大学看護教育学教授 松谷美和子

資料 6 本調査 対象病院リクルート時の協力諾否の葉書；看護部責任者宛て

看護師の患者アドボカシー概念に基づく  
治療選択における  
意思決定支援力に関する研究

- 研究協力へのご意向について以下の A・B どちらかに○をおつけください。  
A. 協力します  
B. 協力しません

ご協力いただける場合、研究者が連絡させていただく  
担当者について以下にご記入ください。

貴院名	
お名前	
ご所属・役職	
email 又は電話番号	
ご協力いただける人数	(                      ) 名
その他、希望する連絡手段や時間	

ご検討いただき、ありがとうございました。

個人情報保護シールを貼付の上ご返送ください。

## 資料 7 本調査 対象病院看護師への研究協力依頼書

### アンケート調査ご協力のお願い ＜看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における 意思決定支援力測定尺度の開発に関する研究＞

晩冬の候、皆様におかれましてはいっそうご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は、聖路加国際大学博士後期課程に在籍している松尾尚美と申します。

現在、「看護師の患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力測定尺度の開発」に関する研究に取り組んでおります。

近年、患者中心の医療や患者が主体的に参加する医療が求められ、患者を尊重し、患者の意思決定を支援する看護師役割の重要性が認識されています。

本研究では、そのような看護師による意思決定支援を、患者アドボカシー（患者の権利を擁護すること）の行為であると定義しています。

この度、看護師が実施している患者アドボカシー概念に基づく治療選択における意思決定支援力を調査し、その看護実践のあり様を尺度として可視化したいと考え、アンケート調査を計画いたしました。この調査により、看護師が患者アドボカシー概念に基づく意思決定支援を実施するための個人的・環境的な因子を探求するだけでなく、患者アドボカシー力を高める教育への重要な示唆が得られるものと考えています。

ご多忙の中誠に恐れ入りますが、本研究の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただければ大変有難いと存じます。

#### アンケートの概要

- 1) 対象；現在看護師として就業されている方  
(常勤・パート・役職などは問いません)
- 2) 質問紙の内容  
25 分程でお答えいただける内容になっています。
- 3) ご回答いただけましたら  
誠に恐縮ですが、返信用封筒に厳封の上、○月○日までにご投函くださいますようお願いいたします。

#### 研究へのご参加にあたり

1. 本研究へのご参加は自由であり、参加しないことにより不利益となることは一切ありません。
2. 調査票の回収をもって、研究への参加同意とさせていただきます。
3. 回答の結果は、本研究の目的のみに使用いたします。
4. 回答結果により、勤務施設や個人が特定されることはありません。
5. 本研究の結果は、聖路加国際大学博士論文、学術雑誌および学会に発表しますが、その場合も施設や個人が特定されることはありません。データは研究終了後5年間厳重に鍵付きのキャビネットに保管し、その後シュレッダーにて裁断、処理いたします。
6. 研究に関する情報はいつでもお受けいたします。他の研究対象者等の個人情報等の保護及び当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料はお見せいたします。研究者のメールアドレスにお問合せください。本研究に関連する利益相反はありません。

本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施しております。

(承認番号 16-A047)

ご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。

**聖路加国際大学大学院 看護学研究科博士後期課程 看護教育学専攻 松尾尚美**

所属機関住所：〒104 - 0045 東京都中央区築地 3-8-5

聖路加国際大学 2 号館

電話：〇〇〇 - 〇〇〇 - 〇〇〇〇

メールアドレス：13DN012-ts@slcn.ac.jp

指導教員：聖路加国際大学看護教育学教授 松谷美和子







資料 8 本調査 対象病院看護師への質問紙

アンケートは、次ページから全部で8ページまであります。  
お忙しいところ誠に恐縮ですが、  
すべての項目にお答えくださいますようお願いします。  
アンケートは、あなたの評価をするものではありません。  
ありのままをお答えいただけると幸いです。



3.あなたが所属する部署について以下についてどの程度当てはまりますか。該当する番号を1つだけ選び○で囲んでください。		5. 非常にあてはまる	4. かなりあてはまる	3. あてはまる	2. あまりあてはまらない	1.まったくあてはまらない
1	患者が治療方針を決めることについて、話し合える同僚がいる					
2	目標となる上司や先輩がいる					
3	患者が治療方針を決めることについて、相談できる上司や先輩がいる					
4	患者が治療方針を決めることについて、話しやすい病棟の環境である					
5	患者が治療方針を決めることについて医師と話し合いやすい雰囲気がある					
6	患者が治療方針を決めるについてケアやわからないことについて薬剤師や栄養士、理学療法士などの他職種と話し合いやすい雰囲気がある					
7	職場の環境には満足している					
8	病棟単位での勉強会はよく開催されている					
9	病棟単位での勉強会はよく参加する					
10	病棟での意思決定支援に関する勉強会はよく開催されている					
11	病院内の勉強会はよく開催されている					
12	病院内での意思決定支援に関する勉強会はよく開催されている					
13	病院内の勉強会はよく参加する					

4.	あなたが看護実践することについて、以下について伺います。該当する番号を一つだけ丸（○）で囲んでください。	かなりあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	患者が何を決めなければならないか常に把握している	4	3	2	1
2	患者が決めようと思った理由を常に把握している	4	3	2	1
3	患者がいつまでに決めなければならないか常に把握している	4	3	2	1
4	患者が決めることについてどの段階（どのような選択肢があるかまだ十分に知らない、もう少しで決められる、選択肢の中でどれを選ぶか迷っている、もう決めている）にいるか常に把握している	4	3	2	1
5	患者がどのような決め方をしたいか常に把握している	4	3	2	1
6	患者にとって問題となっていることに注目するように常に関わっている	4	3	2	1
7	患者にとって問題となっていることを自身で決めることができるということ常に伝えている	4	3	2	1
8	患者にとって問題となっていることに関わりたくない決める権利があることを常に伝えている	4	3	2	1
9	患者が治療方針を決めることにどれだけ関わりたいか必ず確認している	4	3	2	1
10	治療に関するどの選択肢が利用可能であるか常に把握している	4	3	2	1
11	患者が情報を受け取る際にどのような方法（例；ディスカッション、資料を読む、図式化されたデータを見る、DVDなどのメディア素材を用いるなど）を好むか常に考えている	4	3	2	1
12	患者が情報を受け取るために好む方法（例；ディスカッション、資料を読む、図式化されたデータを見る、DVDなどのメディア素材を用いるなど）を利用している	4	3	2	1
13	治療の選択肢があることを提示している	4	3	2	1
14	治療の選択肢を提示する際、選択肢の中に「選択しない」ということも含ませている	4	3	2	1
15	治療の選択肢すべての利点と欠点について、時間をかけ丁寧に説明している	4	3	2	1
16	治療を選択しない場合の利点と欠点について、時間をかけ丁寧に説明している	4	3	2	1
17	治療の選択を今決めなければならないか、あるいは時間があるかについて必ず説明している	4	3	2	1
18	患者が治療の選択肢の中で最も良いものを選択することに自信があるか常に把握している	4	3	2	1
19	患者が治療の選択肢の中でどの利点を最も重視するか明確にすることを常に支援している	4	3	2	1
20	患者が治療の選択肢の中でどの危険性と副作用を最も重視するか明確にすることを常に把握している	4	3	2	1
21	患者が治療の選択肢の中で有益性、危険性、副作用のどれを重視するか明確にすることを常に支援している	4	3	2	1
22	患者がどの選択肢が最も良いと思っているか常に把握している	4	3	2	1
23	患者が何を選択すべきか自信があるか否かを常に把握している	4	3	2	1
24	患者が決めたことは患者にとって何が重要かを示すものであることを常に意識している	4	3	2	1
25	患者が治療の選択肢すべての利点と欠点が整理できるように常に関わっている	4	3	2	1
26	患者が治療の選択肢すべての利点と欠点の重要度が整理できるように常に関わっている	4	3	2	1
27	患者が治療の選択肢すべての利点と欠点を理解しているか常に把握している	4	3	2	1
28	患者が治療の選択肢すべての利点と欠点が発生する可能性（確率）について調べているか常に把握している	4	3	2	1
29	治療の選択肢すべての利点と欠点の中で、患者にとってどれが一番重要か明確にすることを常に支援している	4	3	2	1

次ページに続きます

4.	あなたが看護実践することについて、以下について伺います。該当する番号を一つだけ丸（○）で囲んでください。	かなりあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
30	患者が得た情報について理解しているか常に確認している	4	3	2	1
31	患者が十分な情報を得た上で治療を選択したか常に把握している	4	3	2	1
32	患者が家族や友人から十分な支援が得られているか常に把握している	4	3	2	1
33	患者が自身にとって何が一番重要かについて、他者と話し合っているか常に把握している	4	3	2	1
34	患者がかつて同じような選択をした人に話を聞くことができること、について情報提供している	4	3	2	1
35	患者が他者は何を重要視して決めたのか書かれたものを読むことを情報提供している	4	3	2	1
36	患者が気になっていることを表出できているか常に把握している	4	3	2	1
37	患者が気になっていることを表出できるように常に支援している	4	3	2	1
38	患者が治療の選択肢の利点と欠点が生じた場合にならうかについて主治医に聞くことができるか常に把握している	4	3	2	1
39	患者が気になっていることに対してどのように解決しようと思っているか、常に探っている	4	3	2	1
40	患者の関心や心配がどこにあるか常に探求している	4	3	2	1
41	患者が質問できる機会を常に提供している	4	3	2	1
42	患者が治療を受けるか否か決めることに難しさを感じていないか常に把握している	4	3	2	1
43	患者が他者からの圧力を受けることなく選択しているか常に把握している	4	3	2	1
44	患者が決めたことに対して変わることはないか常に把握している	4	3	2	1
45	患者が決めたことに対してゆらぎはないか常に観察している	4	3	2	1
46	患者が自身の決定に満足しているか常に観察している	4	3	2	1
47	患者が治療方針を決めた後、その決定で良いか必ず尋ねている	4	3	2	1
48	患者の主治医が患者に決めるべきことを説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている	4	3	2	1
49	患者の主治医が患者に治療の選択肢があることを説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている	4	3	2	1
50	患者の主治医が患者に治療の選択肢すべての利点と欠点について詳細に説明していない時、説明する必要性を医師に常に伝えている	4	3	2	1
51	患者の主治医が患者に全ての情報を理解できるように説明していない時、説明する必要があることを医師に常に伝えている	4	3	2	1
52	患者の主治医が患者にどの治療を選択したいか尋ねていない時、尋ねる必要があることを医師に常に伝えている	4	3	2	1
53	患者の主治医と患者が治療の選択肢について徹底的に話し合っているか常に観察している	4	3	2	1
54	患者の主治医と患者が治療の選択肢を選ぶ際、意思が一致したか常に確認している	4	3	2	1
55	患者の主治医と患者が治療の継続について同意に達しているか、常に確認している	4	3	2	1
56	治療の選択肢すべてについて常に把握している	4	3	2	1
57	治療の選択肢すべての利点と欠点について常に把握している	4	3	2	1
58	治療の選択肢すべての危険性と副作用を常に把握している	4	3	2	1

5. 日頃のあなたの看護実践と照らし合わせ、該当する番号を1つだけ丸(○)で囲んでください		非常にあ てはまる	かなりあ てはまる	あてはま る	あまりあ てはまら ない	まったく あてはま らない
<b>I. 連続的・効率的な情報の収集と活用</b>						
1	わずかな情報から問題を察知し、必要な援助を行っている	5	4	3	2	1
2	多様な情報を組み合わせて問題の原因を見極めている	5	4	3	2	1
3	情報を多角的に検討し現実的な問題解決案を提案している	5	4	3	2	1
4	周辺事態を常に観察し必要な援助を随時行っている	5	4	3	2	1
5	短時間に必要な情報を収集しながら見過ごされていた問題も発見している	5	4	3	2	1
<b>II. 臨床の場の特徴を反映した専門的知識・技術の活用</b>						
6	治療・処置の進行を予測しながら必要な準備を整えている	5	4	3	2	1
7	治療・処置が円滑に進むよう起りうる多様な状況を想定して準備している	5	4	3	2	1
8	最大効果・最大効率実現につながる方法で複数の重症患者を援助している	5	4	3	2	1
9	熟練度の高い技術を用いて処置を円滑に行っている	5	4	3	2	1
10	無駄のない動きで患者の消耗を最小にしながら日常生活を援助している	5	4	3	2	1
<b>III. 患者・家族との関係性の維持・発展につながるコミュニケーション</b>						
11	共感的態度でコミュニケーションをはかり患者の興奮をはずめている	5	4	3	2	1
12	自己の感情をコントロールしながら患者の問題行動を受け入れている	5	4	3	2	1
13	患者が話しかけやすいように常に穏やかな表情で接している	5	4	3	2	1
14	患者や家族の訴えに親身に耳を傾けて心情の表出を助けている	5	4	3	2	1
15	患者が現実を受け入れられるよう心情に配慮しながら説明している	5	4	3	2	1
<b>IV. 職場環境・患者個々が持つ悪条件の克服</b>						
16	どれほど多くの仕事をかかえていても日常生活を誠実に援助している	5	4	3	2	1
17	どれほど多くの仕事をかかえていても患者の依頼に確実に答えている	5	4	3	2	1
18	患者からの頻繁な訴えにも根気よく応じている	5	4	3	2	1
19	拒否的な患者にも粘り強く説得を続け援助の受け入れにつなげている	5	4	3	2	1
20	他者を寄せ付けけない患者にも日常生活援助を通し粘り強く関係形成を試みている	5	4	3	2	1
<b>V. 現状に潜む問題の明確化と解決に向けた創造性の発揮</b>						
21	習慣化してしまった援助方法を見直し改善を図っている	5	4	3	2	1
22	単調な日常生活の中に患者が気分転換できる機会をつくり出している	5	4	3	2	1
23	患者が季節感を感じられるような病棟環境を演出している	5	4	3	2	1
24	患者の安全・安楽が高まるように個別状況に応じて手順や物品を工夫している	5	4	3	2	1
25	通常の方法に工夫を加え患者の苦痛軽減につなげている	5	4	3	2	1
<b>VI. 患者の人権尊重と尊厳の遵守</b>						
26	患者自身の習慣を尊重しながら日常生活を援助している	5	4	3	2	1
27	患者自身の意向を確認しながら日常生活を援助している	5	4	3	2	1
28	患者がその人らしく日々を過ごせるように援助している	5	4	3	2	1
29	患者や家族の希望を最大限取り入れて援助している	5	4	3	2	1
30	患者一人一人に敬意をもって接している	5	4	3	2	1
<b>VII. 医療チームの一員として複数役割発見と同時進行</b>						
31	患者に必要な援助を行いつつ家族の心情にも配慮している	5	4	3	2	1
32	他のメンバーの動きを見て自己の果たすべき役割を見いだしている	5	4	3	2	1
33	経験や能力を考慮しながら他のメンバーを支援している	5	4	3	2	1
34	緊急事態に対応しながら他のメンバーへの指示や医師への報告も行っている	5	4	3	2	1
35	他の患者の不安に配慮しながら急変した患者に対応している	5	4	3	2	1

出典:「看護実践の卓越性自己評価尺度-病棟看護師用-」(亀岡,2009)

6. あなたは看護師の仕事に対して、以下についてどの程度あてはまりますか		非常にあてはまる	かなりあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	私は自分の仕事を人に誇りをもって話すことができる	5	4	3	2	1
2	私はやりたいと思っている看護が実践できている	5	4	3	2	1
3	私は自分の仕事にやりがいを感じている	5	4	3	2	1
4	私は仕事上の課題を明確に持っている	5	4	3	2	1
5	私はこの職場で働いていると、成長できていると思える	5	4	3	2	1
6	私は今仕事に面白さを感じている	5	4	3	2	1
7	私は今の仕事に意義を見いだしている	5	4	3	2	1
8	私は患者が回復していく過程に関われる看護の仕事に手ごたえを感じている	5	4	3	2	1
9	私は創意工夫しながら看護実践を行っている	5	4	3	2	1
10	私は同僚から褒められたり、認められたりすることがある	5	4	3	2	1
11	私は患者や家族から頼りにされていると思う	5	4	3	2	1
12	私の職場の看護管理者は、看護師に賞賛や労いの言葉をよくかける	5	4	3	2	1
13	私の職場の看護管理者は、仕事上で問題が発生した場合、適切な対応をしてくれる	5	4	3	2	1
14	私は、看護管理者から成長・発達につながるような助言を受けている	5	4	3	2	1
15	私は、看護管理者に何でも相談することができる	5	4	3	2	1
16	私の職場の看護管理者は、職場の方針や目標についてスタッフへ分かりやすく説明している	5	4	3	2	1
17	私は、看護管理者から公平に評価されていると感じる	5	4	3	2	1
18	私は、他職種と患者のケアについてお互いに相談しあえる	5	4	3	2	1
19	私の職場では、個別な事情にも対応してもらえる勤務体制である	5	4	3	2	1
20	私の職場では、仕事とプライベートの調和(バランス)がとれている	5	4	3	2	1
21	私の職場では、業務量に応じた適切な人員の配置が行われている	5	4	3	2	1
22	私は、仕事に見合った給料をもらっている	5	4	3	2	1
23	私の職場では、希望に合わせて休みが取れる	5	4	3	2	1
24	私の職場では、目標となる看護師が存在する	5	4	3	2	1
25	私は、会議で積極的に意見を言える	5	4	3	2	1
26	私は、職場で役割が果たせていると思える	5	4	3	2	1
27	私は、医師に対して自分の意見をはっきり言える	5	4	3	2	1
28	私は、職場で自分の意見が活かされていると思えることがある	5	4	3	2	1

出典:「病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度」(撫養ら,2014)

最後までお答えいただき、心より感謝いたします。

日々の看護実践やアンケートに関するご感想など何かありましたら、下記にご自由にお書きください。